

# 教育最前線

連載 20

●静岡県・プロに学ぶセーフティ体験講座

## 様々な視点から高齢者に事故防止について考えてもらう

### 「プロに学ぶセーフティ体験講座」の内容

#### 1 座学 (交通事故の実態)



平成21年中の静岡県内の交通事故件数は3万5878件。そのうちの14.7%は、65歳以上の高齢ドライバーによる事故であること、県内の交通事故死者数(179人)の47.5%は高齢者であることをインストラクターが説明。

#### 2 車両の大きさによる速度感覚の違い

参加者が自分に向かって走ってくるクルマ、バイクを別々に見て、どちらが速いかを当てる。全員が「クルマのほうが速い」と答えたが、実はどちらも同じ速度であり、車体が小さいと実際のスピードよりも遅く感じる場合があることをインストラクターが解説した。



#### 3 斜め横断の危険



写真のような片側一車線の道路を参加者に横断してもらい、その時間を計測。まっすぐ横断した場合は5.5秒~7.5秒、斜め横断をした場合は7.5秒~9.5秒。斜め横断はまっすぐに横断するよりも車道に長く滞在することになるため、危険であることを理解してもらう。

#### 4 反応制動

50km/hで走行し、前方にある7カ所の信号のいずれかが点灯するのを確認したら、急ブレーキをかけて停止する。信号を見てから、ブレーキを踏むまでには反応時間があり、その間にクルマがどれだけ進んでいたかを実際に確認する。



静岡県では平成21年度より、交通教育センターレインポー浜名湖(静岡県浜松市)を含む県内の2施設で、高齢者を対象にした「プロに学ぶセーフティ体験講座」を開催している。同講座は65歳以上のドライバーはもちろん、



インストラクターが参加者に安全運転のポイントをわかりやすく説明

**ポイント①**  
**交通事故の実態を伝える**  
座学では参加者たちが暮らす静岡県の交通事故の実態を知ってもらう。インストラクターが交通事故死者数は減

運転免許を持たない高齢者の受講も可能になっており、県内の市町や高齢者団体等を通じて参加者を募集している。  
9月2日に行われた同講座には磐田市社会福祉協議会の運転ボランティア8名が参加した。運転ボランティアは、寝たきりや身体に障がいのある方を病院などへ送迎する(家族にクルマを運転できる人がいない場合に限る)ために福祉車両の運転を担当している。磐田市社会福祉協議会では、運転ボランティアの安全意識の向上を目的に同講座を利用したという。

**ポイント③**  
**歩行者とドライバー、それぞれの立場から考える**  
この講座では、参加者が歩行者の立場から事故防止を考えられるよう工

少傾向にあるものの、死者数に占める高齢者の割合は高くなっていることを説明していく。今後、さらに死者数を減らしていくためには、高齢者が歩行中、自転車乗用中、運転中それぞれの場面で事故にあわないようにすることが重要であることを伝える。  
**ポイント②**  
**公道ではできない体験をしよう**  
実技は反応制動。参加者一人ひとりがクルマを運転し、緊急時を想定した急制動を1人3回体験する。1回目は強くブレーキを踏むことができないため停止距離は伸びてしまう。「完全に止まるまでブレーキをゆるめず、強く踏み込んでください」とインストラクターが声をかけた。3回目には全員が緊急時の正しいブレーキ操作を身につけた。

夫されている。自分自身が歩行者の時はもちろん、その知識をドライバーとして運転している時にも活かしてもらうことがねらいだ。例えば、夜間の視認性について。インストラクターが黒赤、白の服を着て、明るい場所と暗い場所での見え方の違いを示す。昼間と夜間では同じ色でも見え方が違うこと、反射材を身につけることでドライバーによりアピールできることを自分の目で確かめてもらう。  
夜間、ライトを下向き(ロービーム)で走行している場合、照射範囲の約40m先の状況までしか確認できない。ドライバーが危険を発見してクルマを停止させるまでの距離は、乾いた路面を60km/h走行時で約44m。つまり、夜間は横断する歩行者などを発見してからブレーキを踏んだのでは間に合わないこともある。  
「夜間など、先的狀況が見えにくい場面では、

「反応時間など、自分の感覚と実際はズレがあることを認識できた」「夜間に目立つ色や反射材の効果については、実験を交えてわかりやすかった。地元に戻って知り合いにも伝えたい」と参加者は感想を語る。この講座は自ら気づくことで、高齢者が交通行動を見直す良い機会になっているようだ。

**読者の声**

ご愛読者のみなさまへ  
SJに対するご意見・ご感想をお寄せください！  
SJ編集部では今後の紙面づくりの参考にさせていただきます。みなさまのご意見・ご感想・ご要望を下記メールアドレスにてお待ちしております。  
sj-mail@spirit.honda.co.jp

自分の行動を見つめ直すきっかけに  
「反応時間など、自分の感覚と実際はズレがあることを認識できた」「夜間に目立つ色や反射材の効果については、実験を交えてわかりやすかった。地元に戻って知り合いにも伝えたい」と参加者は感想を語る。この講座は自ら気づくことで、高齢者が交通行動を見直す良い機会になっているようだ。